

鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会

# 湖鳥会会報

第4号 1995年12月 鳥取市湖山町南4丁目101番地  
鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会 湖鳥会



## <目次>

- 電気電子工学科の近況 (学科長 大北 正昭 教授)
- 博士後期課程のご案内 (講座主任 小西 亮介 教授)
- 新設教育研究分野紹介 (大内 伊助 教授)
- 新任教官の一言
- 同窓生だより
- 教養部改組について (大内 伊助 教授)
- 電気電子工学科組織表
- 会計と行事
- 湖鳥会からの連絡

	1995年12月現在
同窓会会員数	2,056名
電気電子工学科在学生数	412名
特別会員数	17名
賛助会員数	39名

(写真は、今年大学橋わきに開設したJ R鳥取大学前駅、電気電子工学専攻2年の古賀正一君撮影。)

# 電気電子工学科の近況

電気電子工学科 学科長 大北 正昭

鳥取大学工学部電気電子工学科も、平成元年の旧電気工学科と旧電子工学科の改組合併から早いもので7年目を迎えました。平成7年度は「教養部廃止」という昭和24年の鳥取大学開学以来の大改革の年でもあります。

本学科は、平成元年、電気電子工学科の発足時には、電気回路システム及び電子回路デバイスの2大講座編成でスタートしましたが、電気電子工学の広範な教育研究を能率よく実施発展させるために、本年度より、2大講座より電子情報制御、電気電子システム及び電子物性デバイスの3大講座に改組し、これらの講座を、11教育研究分野により支える体制を作り上げました。教官も、旧教養部の物理学担当の2教官を受け入れ23名となりました。上記の11教育研究分野により、日本の工業・産業を縁の下から支える強電流部門から時代の先端とされるハイテク技術までをカバーしております。電気・電子工学に関する基礎学力の向上及び応用力をつけることに力を入れて教育研究を行っております。

本学科は、卒業生諸君も先刻よくご承知のように「電気主任技術者学校認定校」の指定を受けております。この制度は、卒業後、電気主任技術者の資格の取得を希望する人にとって非常に有利です。もうすでに、複数の卒業生がこの制度により1種免許を取得され、社会で活躍されております。

昨年度より、従来の修士課程にあわせて、長年の悲願となっていた博士課程が設置されました。本年度より修士課程は博士課程前期課程となり、学部学生の約1/3が毎年入学しております。また、博士後期課程（従来の博士課程と呼ばれているもの）には社会人からも多数の学生を受け入れております。修士課程を修了していない卒業生の諸君も、博士後期課程への門戸が開いておりますので、ご希望がありましたら、本学科の博士後期課程担当の小西教授に気軽にお問い合わせ下さい。

就職状況について、一言触れておきたいと思いますが、今年の8月以来1ドルが100円を割り、ジリジリと円高が進み、1月頃には一時もち直したが今年の7月頃には80円台までにもなりました。海外の経済状況に連動して動くわが国の就職状況も良いはずはなく、これまでの最悪の状態となりました。本年度の就職担当の西守教授のご尽力により大学院修了予定者に対しては、まあまあですが、学部卒業予定者に対しては、かなり厳しいようです。逆に、研究室の雰囲気は一時に比べよく、多くの学生が真面目に落ち着いて勉学に励んでいます。

鳥取大学工学部電気工学科は、昭和40年に創設され、今年には30年目の節目の年であります。工学部創立30周年と言うことで種々の行事が予定されております。卒業生諸君からも30周年記念の募金を学部長名でお願いしておりましたが、ご協力に対しまして誠に深謝致しております。

平成7年8月

## 博士後期課程のご案内

電子情報システム講座 講座主任 小西 亮介

鳥取大学大学院工学研究科に博士後期課程が設置されて1年を経た今、電子情報システム工学講座には平成6年度入学のDC2年生7名（博士前期課程修了者1名、社会人5名、留学生1名）に加えて今年度入学のDC1年生6名（社会人5名、留学生1名）の合計12名の院生が現在在学しています。1年目の研究計画や授業は検討する余裕もないほどそれぞれの指導教官、授業担当者が努力されたようですが、やっと、落ち着いて振り返ることができるようになりました。

博士後期課程は、情報生産工学専攻、物質生産工学、社会開発工学専攻の3専攻で構成されています。電気電子工学科に最も縁の深い情報生産工学専攻は、生産システム工学講座、知能情報工学講座と電子情報システム講座から成り立っています。当講座は《回路システム工学》、《情報電子工学》、《電子デバイス工学》、《電子物性工学》の4つの研究分野で回路、情報、コンピュータから超伝導、半導体デバイス、電子物性、材料制御技術に至るまで、現在のテクノエッジを支える最先端の分野をカバーしています。

来年度はじめての博士が誕生する予定ですが、今後益々博士課程の充実を目指して教職員、DC生ともども頑張っています。特に、社会人入学は職場で働きながら博士後期課程の学生となる制度で、鳥取大学の博士課程の特長の一つでもあります。そのためにも修士修了者や社会人の皆さまの博士課程への入学をおすすめいたします。

## 新設教育研究分野紹介

### —量子物性工学—

電機電子工学科	大内 伊助
---------	-------

本年4月から、大内、中井の2名が電機電子工学科の仲間入りをさせていただき、量子物性工学の新分野を設けさせていただきました。狭い意味では、古典物理学で説明できず、量子力学を用いて初めて取り扱えるような現象や物質をもとにして新しい価値を創造する工学を、量子物性工学と定義するのがもっともらしいと思われませんが、非常にはっきりした定義があるわけではありません。量子力学的な扱いをするというのは、今日では科学の世界では極く普通のことですし、そもそも、電子というものは量子力学的な存在であるわけで、電子工学は量子物性工学だといっても間違いではないかも知れません。

それはさておき、私どもが取り組んでいる研究対象は、主として、磁性物質や応用、その周辺です。もっと具体的には、高密度記録媒体として有望なCoCr,あるいは、それに第3元素のはいった薄膜の構造や物性、Gd, Yなどの希土類金属のアモルファスの合金の構造や磁性などといったものを追求しています。その追求の手段の一つとして放射光を利用しているというのが特徴の一つです。高速の電子が曲げられると極度に輝度の高い光を出しますが、この放射光を研究手段として利用することが、一昔前と比べると、随分楽になってきました。とはいっても、設備は何処にでもあるものではなく、私どもも、今の所、筑波の高エネルギー物理学研究所や岡崎の分子科学研究所に行って共同利用というかたちで実験をしています。しかし、現在、播磨地区に、特別立法で、Spring-8と通称で名づけられる巨大な放射光設備が出来上がりつつあり、中井もその1つのビームラインの建設に役買っています。これが出来上がると鳥取大学は地の利を得ていますのでもっと利用頻度が上げられるでしょう。また、以上の周辺の分野として、磁気記録媒体の基板として使用されている高分子フィルムの量子物性も手がけていますが、これにも放射光を利用しています。

今年は、4年生が2名だけで、こじんまりしていますが、既存の薄膜作成用のマグネトロンスパッター装置や、アモルファス金属作成のための装置の充実を行いつつあり、将来的には磁性関係の測定装置の充実も少しづつ行って行きたいと思っています。

卒業生の皆さんも何かこちらの仕事で役に立ちそうなことがあれば、気軽に立ち寄ってください。



# 湖 鳥 会

## 新任教官の一言

時 期	氏 名	新 所 属	旧 所 属
旧教養部より異動（平成7年4月1日）	大内 伊助	電子物性デバイス講座・教授	旧教養部物理学教室
旧教養部より異動（平成7年4月1日）	中井 生央	電子物性デバイス講座・助教授	旧教養部物理学教室

### 電子物性デバイス講座・教授 大内 伊助

本年4月に工学部電気電子工学科へ移るまでは、教養部の物理教室に6年間在籍していました。もともとの出身は修士まで理学部の物理学科ですから、自分では極く自然な居場所のつもりでしたが、長年企業に つとめた後で、教養部に行くというのはあまり多くはないらしく、物理学会誌が特集した”大学物理教育を 考え直す”というシリーズに、'企業出身者の立場から'という文を書かされたことがあります。その点か らいうと、今度、工学部に來させていただいて多少はもとに戻ったことになるのかも知れません。

具体的に今やっている磁性薄膜をいじりだしたのは、14,5年前からですが、磁気記録媒体の基材にも 用いられているポリエステルフィルムをいじりだしたのはうんと古く、35年以上前になります。放射光を 武器に使う仕事をやりだしたのは鳥取へ来てからです。お陰で、若いときでも滅多にやらなかった徹夜の実 験をときどきするようになりました。

生まれ、育ちともに京都ですが、修士課程を終えた後、帝人にはいってからは、岩国、東京、ニューヨ ーク、多摩、相模原、ニューヨーク、相模原、横浜と住居も何度も変わりましたし、4ヶ所の研究所のほか、 本社や海外駐在員の仕事までやりましたので、転勤や組織替えに対しては全く抵抗感がありません。寧ろ、 ときどき変わらないと張り合いがありません。というわけで、工学部に移ってまた気分を新たにしています。

もともと、2-3年前から、テニスをする回数がうんと減ってしまったのはよくないと思いながら、この 方はもとにもどっていません。

### 電子物性デバイス講座・助教授 中井 生央

高校卒業までに香川県で過ごし、岡山理科大学、岡山大学大学院を卒業しました。その後岡山大学にいま したが、1988年4月鳥取大学教養部物理に來ました。ところでこの私の軌跡を地図の上に描くと、ある ことに気づきます。それは香川から岡山へ、岡山から鳥取へと、常に北の方角に移動していることです。 それでこの法則(?)に従うなら、例えば次にどこかに移るとしたら、それは日本海を渡ってシベリアしか ないと内心恐れていました。それが1995年4月からは教養部の改組により、教養部の建物よりは少し北の 方角ですが、海を渡らずに海の少し手前の電気電子工学科に所属することになりました。これで私としては 一安心と言うことで、今後ともよろしくお願い致します。

なお今の研究テーマはアモルファス希土類金属合金の磁性とその構造との関係です。アモルファス合金の 構造は通常のX線回折では測定できませんので、茨城県つくば市にある高エネルギー物理学研究所の放射光 実験施設に行って実験しています。また兵庫県相生市の北、作用の近くには1997年完成を目指して新し く放射光の施設が建てられていますが、その施設での実験設備の建設にもタッチしています。

## 同窓生だより

### 第13回(昭和63年)電子工学専攻卒 西浦 順一

まったくこんなに暑いのに非常に忙しい日々が続いています。何でこんなに・・・という感じです。このような状況なので同窓会関連の行事に参加できない有り様で、皆さんに多大なご迷惑をおかけしまして申し訳ありません。

私は大学卒業後、地元鳥取の日本セラミック(株)に入社し、すでに7年がすぎようとしています。当社は鳥取の地元企業で、セラミックセンサを製造販売している会社です。(大証2部上場)

鳥大からは、化学系の先輩方がかなり以前よりおられまして、電気・電子工学科から入社したのはここ数年のこのようです。私に近い年齢では、S62年電子卒の西垣氏、H2年電子修士卒の有岡氏、H4年電気卒の林氏、よりH6年電子修士卒の吉田氏らが日夜仕事に励んでいます。大きな会社ではないので、自分のやりたいことができる非常に素晴らしい環境?です。

最後に、私に近い年齢の鳥大出身の仲間で年3回(正月、ゴールデンウィーク、盆休み)必ず飲み会を行っています。今は10名たらずですが、そのうちどンドン飲み会の輪を広げていこうとたくらんでいます。主なメンバーは以下の方々です。

小林靖弘(S63電子修士卒:現在三洋電機ULSI研究所・岐阜)

小谷雅人(S61電子卒:現在本田技研和光研究所・栃木)

有岡正登(H2電子修士卒:日本セラミック(株)・鳥取)

倉益正明(S62電子卒:現在リコー鳥取技術開発・鳥取)

建井 淳(H1電子修士卒:現在現在境港工業高校教諭・鳥取)

河本 尚(H1電子修士卒:現在リコー(株)・横浜)

この人は倉吉出身ですが、飲み会の度に鳥取まで来ます。

中原利典(S61電子卒:現在鳥取三洋電機・鳥取)

池田智是(H1電子修士卒:現在ソニー・厚木)

この人は四国出身なのですが帰りにわざわざよってきます。

今は少ない人数でやっていますが、〇〇君の顔が見たいなと思ったあなた。すぐ私の所にTELをかけて下さい。一緒に飲みましょう。

<連絡先>

自宅:鳥取県岩美郡国府町奥谷3丁目305-2

コーポアルファ106号

TEL:0857-26-1812

勤務先:鳥取県八東郡八東町安井宿1333-1

日本セラミック(株)研究開発部

TEL:0858-84-3900

### 第4回(昭和50年)電子工学科卒 重村 豊

大学時代に覚えたたばこですが、禁煙を始めてから3年半がたちました。特に健康に留意してというわけではなく、40歳になったので何か人生を見直したいと思って禁煙を始めました。しかし、数カ月経った頃から体に2つの異常を感じるようになりました。1つはジマシンが毎日のように出るようになったこと、もう1つは咽が疲れやすく夕方になると声が出にくくなったことです。医者の診断ではジマシンの方は血液検査では何も異常がないので、たぶんホルモンのアンバランス(ニコチンが抜けたため?)が原因でしょうということでした。また、咽の方は慢性的に炎症を起こしており、これまで20年間も煙草を吸って咽を痛めてきたのだから簡単には治らないということでした。どちらも長く通院しましたが、症状は軽くなったのですが、なかなか快復しません。今では持病とあきらめて仲良くつきあうことにして医者に行くのも止めました。

駅のホームの片隅に集まって煙草を吸っている愛煙家の姿を見ると何となく惨めさを感じると同時に少し優越感を感じます。しかし、煙草の香りに未だに懐かしさを感じております。

話は変わりますが、私は宝塚市に住んでおります。先日の阪神大震災のときは私も少なからず被害を受けましたが、幸運にも家族は全員無事で家もまだまだ住めるレベルです。

同窓の方々の仲には、ご自身やご親族が被害を受けられたり、家を失われた方もいらっしゃると思います。心から、お見舞い申し上げます。

## 第17回（昭和60年）電気工学科卒 加納 尚之

早いもので卒業してから10年たち、今では1歳6カ月の息子のパパとなっています。今年の夏休みはその息子連れて、別府市の北にあるアフリカンサファリに行きました。ライオンにも、トラにもとにかくどんな動物を見ても”ワンワン”といいながら指差す息子がとてもかわいらしく見えました。

## 第2回（昭和45年）電気工学科卒 松本 昭夫

同窓会の皆様、今年も昨年と同様に暑い夏になりましたが、如何お過ごしでしょうか？きっとこの湖烏会会報が届く頃は、この暑さが嘘のような季節になっていることと思います。

さて私は、1970年（大阪万博）に卒業して以来25年間三菱電機（株）姫路製作所に勤務しております。工場は世界の文化遺産である国宝姫路城を望むことができる、兵庫県姫路市にあります。姫路製作所は三菱電機の中で主として自動車用電装品、自動車用各種制御機器関係を担当しており、国内自動車メーカをはじめ北米・欧州・豪州等広く世界各地に各種製品を供給しています。私はその中で、ほとんどの期間自動車の電気エネルギーの源である発電機設計を担当してきました。自動車専用発電器は、エンジンから直接駆動される交流の同期発電機で、発生した三相交流をシリコンダイオードで直流に変換し、そしてハイブリッドICの制御回路にて電圧を一定にコントロールしながら車のバッテリーと各種電気負荷に電気エネルギーを供給するものです。この発電機も自動化技術、小型軽量化技術、エレクトロニクス技術、低騒音化技術、各種分析技術等のめざましい進歩で25年間で大きく変貌しました。今後も人と地球にやさしい車作りに貢献すべく開発を続けていくつもりです。

最後になりましたが、姫路製作所には10人を越える鳥取大のOBが勤務しております。姫路も鳥取大に近いので大学に来られたときや近くにこられたときは連絡下さい、姫路をご案内します。

〒670 姫路市千代田町840番地

三菱電機（株）姫路製作所 回転機製造部 回転機技術第2グループ

TEL 0792-98-9456

（三菱電機（株）勤務）

## 第1回（昭和44年）電気工学科卒 藤井 静士

### 阪神・淡路大震災に思う

神戸市東灘区に住んでいる。平成7年1月17日未明、あのとてつもない化け物の雄叫びで目覚めさせられた。それ以降今日までいや今後当分の間、仕事に私生活にこの後遺症と関わりながら生きていかなければならない。前日の三連休で、エネルギーを使いきって大曝睡中の我が身にとっては、あの強烈な揺さぶりは眼覚まし時計に他ならなかった。揺れを体感じた瞬間、筆筒が飛んできてその下敷きになり、化け物の手の中でなされるがままであった。地震だとは直感できたが、瞬間に身動き一つでき無くなり、真っ暗闇の中で過去に経験したこともない揺さぶを受け、家財の飛び交う音・コンクリートのきしむ音等は殆ど意識の中に残っていない。巨大な怪物の手の中で、徹底的に痛めつけられている無力な自分の姿だけが意識の底に

焼き付いている。数十秒間が一分にもいや五分にも感じられ”もう止めてくれ”と叫びたい心境であった。揺れが収まったあと、自分の置かれている状況を直ぐには全く理解できなかった。ベッドは壊れ、筆筒は倒れ、クローゼットの扉は倒れ、電気は勿論点灯しない。隣の部屋へのドアは開かない（他の部屋は何処も家具が飛び交い足の踏み場もなかった）。ベランダから周囲を見渡すと、いつもの喧噪とは違い異様な静けさの中で、阪神高速湾岸線のナトリウム灯と航空障害灯の閃光が平然と点灯している。あとは、近くのビルの階段非常照明のみである。拙宅は9階でロケーションは非常に広く、約270度は見えるいつもの百万分の？ドルの夜景が一面真っ暗になり、停電範囲の広さを認識したときは、下半身から力が抜けていった。外からなにか悲鳴らしきものが聞こえるので覗くと、目の前の民家から火の手が上がっている。倒壊した建物から出火し、誰かが取り残されている様子である。電話回線の不通で消防署にも連絡できず・・・と思案している間にどんどん火の手は大きくなり、倒壊していない建物も共に一画を焼き尽くしてしまった。水の一滴をかけることなく、ただ呆然と、荒れ狂う火炎をじっと見ていること以外何の手出しもできない人間の弱さ、妥協を許さない自然の破戒力に恐さと言うよりも虚しささえ感じられた。緊急者のサイレン一つ聞こえない中で、炎のはじける音・ゴゴと崩れ落ちる音・バーンという爆発音等は、茫然とすることしかできない人間とは余りにも力の差がありすぎた。ヘリコプタが西の方へどんどん飛んで行く。確かに西空も夕焼けのように真っ赤になっている。しかしこの時にはまだ、未曾有の大震災などとは全く認識できていなかったし、長田地区の大火災など想像さえもできていなかったのである。そういう認識を持ったのは、東の空が白々と明けると共に周囲の様子が明らかになってからである。大小の黒煙が無数にたちのほり火災の多さを再認識された。この景色は何処かで見たことがある。戦争映画の爆撃のあと、或いはあの湾岸戦争の油田火災の黒煙と重なってくる。9階から見ると確かに民家の屋根瓦は落ちているし、電柱はいたるところで傾き倒壊している。しかし、雰囲気が違う。木造の住宅は点灯していないが座屈している（階数が変わっている）ため、いつもとは景色が違うのである。南の方では阪神高速道路神戸線の高架部にトラックが停まっており、渋滞の心配をしながら眼を追っていると、なんと黒い壁に一本の白い線が見えた。倒壊した高速道路の路面が見えているとはすぐに理解できなかった。この時点で今回の地震の大きさを実感できたように思う。この時にはまだ、ラジオを聞ける状態ではなかったので、直感だけである。

地震発生と同時に困ったことは、停電によって何も動けなかったことである。電気設備を飯の種にしている者にとって多くのことを考えさせられた。数年前に風台風による広域な停電があったが、台風と地震では大きな違いが有る。我が家では、懐中電灯・薬は廊下の棚に、ラジオは引き出しに、電池の予備は各種常備し、ポータブルテレビも購入し、停電時の備えは万全のつもりであったし、ポータブル発電機も購入しようかと相談しているところであった。しかし、今回何の支障もなく即ぐに使用できた物は皆無であった。一番の障害は、振動により家中がゴチャゴチャになって必要な物を取りに行けなかったことである。懐中電灯が使えだしたのは夜が明けたあとであり、ラジオのニュースが聞けたのは8時30分頃である。ポータブルテレビの電池は使用不可、昨年の暮れに内緒で購入した液晶のポケットテレビは会社に置いており、予備の乾電池は殆ど使えなくなっていた。最近の電話は電源が切れると発信できないものがある。地震発生と同時に通話ができなくなり、携帯電話で田舎にだけ無事の電話はできたが、これも直ぐに掛かり難くなった。充電できない状態ではむやみに電池を消耗させるわけにもいかず、一生に何度もないような非常時にも関わらず、全てのものが効力を発揮し得なかったのである。我が家等はまだ不幸中でも幸で、一瞬にして倒壊した家屋、傾いた家屋、出入口が開閉できない家屋等のことを思うと、非常時への備えというもののむづかしさ実感した。よく話題になっている非常時グッズ等もただ備えているだけではなく、その保管場所も良く考えておかなければならないことである。

ラジオの情報を聞いて、やっと社会の様子が解ってきたが、事の異常さが余りにも現実離れしているため、ニュースというよりドラマのような感触である。しかし、ドラマは筋書きどうりにどんどん展開するが、このようなニュースには展開がない。最初は社会状況を把握するために必要なニュースであったが、エキサイティングなアナウンサーのオウム声は次第に耳障りな雑音になって行った。確かに、被害の程度や場所、死傷者数の増えていく様、或いは政府の動き等も必要ではあるが、それは被災地域外の情報であり、被災地域内の物が一番ほしい情報は皆無であったと言ってもよい。更に、着のみ着のまままで避難している者には情報源さえもない状態である。後日一部のキャスターも述べていたが、地域広報が非常に重要である。起こってしまったことの局所的な伝達ニュースは何度聞いても殆ど役に立たない。余談であるがテレビの報道の仕方に腹立たしさを覚えた。決まり切った視点からの情報だけでこれが全てのようなレポートが多すぎたように思う。そして一つ、カメラが入りレポーターが喋れるところは、既に安全な場所であるということ。報道用

と思うしきヘリコプタは何機も西へ飛んで行く。西にはあの大火災が発生した長田区が有るからである。しかし、我が地区の状況は判らない。避難した者は何処へ行けばいいのか、被災者は何をすればいいのか全く判らない。地震直後には無理としても、その日の午後には何らかの地域広報があってもしかるべきだと思う。勿論自活できる者はそれで良いのであろうが、人の口から口へと伝わっていく情報は、一步間違えると流言飛語となりあらぬデマが飛び交う危険性があると思う。「日頃から指定避難場所を決めているから・・・」というのは心構えであり、それで充分でもないし、災害という者は筋骨きどりに動いてくれない。行政が当てにならないのであれば、日頃から地域活動を実のあるものとして確立しておかないと何年経っても成熟社会には成り得ないのかとも思う。今回の淡路地区は耐力が強かった・・・らしい。耐力の強さは、救助活動をはじめ何事もスムーズに進んで行く。

小生もサラリーマンである。ましてや、今回のような非常時には何は置いても会社へ馳せ参じ、社会のために奉公しなければならない立場にある。自分が困っている以上に、もっと多くの人が、“電気”を待っている。過去何度となく、台風時、嵩維持に待機召集を受けたことが有る。しかし、今回のような地震災害の場合、家族を護ること、地域に奉仕すること、会社業務をすることの判断には難しい問題を含んでいると思う。これは、何も小生だけの問題でなく、役所・警察・消防・水・ガス・電気・建築・土木等非常に広範囲である。このような職業に就いた瞬間からの宿命で、皆それなりに覚悟しているとは言っても、最悪の場合、家族・親族・近隣の死活問題が絡んでくる。自分のことは構わず復旧作業に従事された人の事がマスコミで報道され、会社で称賛されたが、単に美談として取り上げられることに苛立ちを感じた。被災者数百万人の各人の状況・都合により対応は千差万別だからである。出社したくともできない人、出社できてもしない人、家族を護るのも至極当然であり、公務に着くのも当然である。本当は、家族を放置して復旧に駆けつけた人は糾弾されなければならないのかもしれないし、被害は大したことがないのに、交通機関のせいにして何もしなかった者も糾弾されるべきかもしれない。ただ、個人の実状を全て見極めること等不可能であるし、意味のないことであるが、画一的な枠内だけの評論に対して苛立つのである。こういう時こそ、個人が自由に選択した価値観が重要であり、それにより社会の成熟度が評価されると思う。数時間かけて出勤する前に地域に奉仕する手段はないものかと思う。昔の自警団や、消防団のような組織はよく考えられた昔からの智恵であろう。ましてや自家用車で出勤して、大渋滞に拍車を掛ける事はもってのほかであろう。小生は諸般の事情で翌18日に家族を避難させた後出社し、以降約一カ月間泊まり込みとなった。(実は他に足廻りがないので自家用車で出社した！)

危機管理と称し様々なマニュアルの策定が検討されているが、マニュアルを重視すると応用が利かなくなる事もあり、災害直後にはやはり組織として個人として有機的に自発的に動ける能力に頼らざるを得ないのである。そのためには、今だけの流行ではなく日頃からの継続的な啓発が必要である。更に、報道方法も含め、災害時の復旧対策は官民一体で、かつ、省や局や企業を越えて総合的に対応できる体制がないと、理想的な対策は打てない。その場合、いつも馬鹿を見るのは真面目に税金を払ってコツコツ生きている善良な一般市民である。

あの日から既に半年以上過ぎ去ってしまった。しかし、復旧の兆しはなかなか見えてこない。天災は誰に責任を求める術もない。しかし、昔から治世というのは自然の恐怖から人民を護ることが基本であると教わってきた。全てを行政に頼るわけには行かないが、高度成長のみが社会ではないと言うことを改めて考え直し、根無し草ではあるが地域に密着していきたいと思った次第である。成長行政の手本のように言われた“神戸市株式会社”のおかげで、我が社も少しは儲けさせていただいたこともあり、復興事業が軌道に乗るとまたなにがしかのおこぼれを頂けるものと期待して、日々サラリーマンを続けているわけである。

神戸に住みだして、なかなか離れ難いものがある地域ではあるが、ほこりっぽく先の見通しが明確に見えてこない神戸に、“好いた女房に三下り半を・・・”のややこしい心境の今日この頃である。

蛇足であるが、11階建てのマンションは全壊判定を受け、電気は2月5日、水道は4月初旬、ガスは4月下旬の復旧であった。先の総会で今のマンションは取り壊し、建て替えになる予定で、2年間位は放浪の生活を送ることになるかもしれない。

(きんでん勤務)

## 第2回(昭和45年)電気工学科卒 川端 哲男

工学部発足30年という大変喜ばしい年に、鳥取市岩倉の木造校舎を鮮明に思い出す。3カ月間、湖山より通学したが、閑静な場所で、現校舎同様、環境は大変良かったように思う。我々は、機械、電気、工業



科学の3学科で学生数も少なく全員の顔と名前が一致していた。また、先生方や先輩の第1回卒業生達とも、ソフトボールなど遊びの方でも仲良かった。現在は、当時の先生数、学生数、教室数に比べ数倍となり、学生間、先生方とのコミュニケーションの機会が減っているのではないかと思うが、国立大学一期校（現在は言わない？）の風格を備えたと感じている。

今年、会社より勤務25年の表彰を約3500人の人達と受け、入社以来の様々な出来事を思い起こすことができた。小林電力研究室との交流は、年賀状と、お盆の頃の先生への訪問、先生が上京したときの在京同窓生の集まりくらいであったが、平成2年大学と会社のリエゾン活動を契機に、(株)東芝・東芝ライテック合同の同窓会を発足した。今年、第6回を実施できた。会員数は約70名と大所帯となった。現在は新入社員が配属される前の4月第3土曜日を、新入社員歓迎と総会として開催、毎年40数%の高い出席率を保っている。幹事は入社年度毎の持ち回りで、毎回幹事の嗜好をこらした場所と宴会の設定に、会員は大いに満足している。新入社員は諸先輩の建て前とも本音ともつかぬ話題に、これから始まる会社生活の期待と不安が重畳して、神妙な顔つきをしている。我々の最高の酒の肴である。

同窓会名は、(東芝)“風紋会”(会長というのはおこがましいが、小生が続けさせられている)、工学部同窓会の名称募集で、図々しくも同一名を募集した。“風紋会”が毎年継続できるよう、新入社員の確保が必要であるし期待したい。まだまだ先の話のようであるが、定年退社会員の“風紋会”強制継続会則条項を練っていかねばとフット思今日この頃である。

東芝“風紋会”

## 第16回(昭和62年)電子工学科卒 福島 淳

卒業後、NECに勤務して9年を迎えました。当時中央研究所に配属されましたが、5年前に琵琶湖を眺める絶好の地、大津(NEC関西内)に転勤となりました。以来、Video on DemandやMultimedia on Demandのキーデバイスとなる半導体レーザや受光素子の研究に取り組んでいます。最近では、金沢での応用物理学会に参加し、岸田先生や同窓生とお会いでき懐かしく想いました。

さて、同窓生の皆さんはご使用になられてますでしょうか?最近はやりのインターネット、電子メールなど。新聞、TVでは、フランスの核実験に抗議して東大の大学院生がインターネットを介して署名運動を行った話題がありました。私も5年前から使用し始めて、情報取得だけでなく趣味も含めて楽しんでいきます。この原稿も電子メールを通して、編集委員会へ送付させて頂きました(実は、原稿を提出するのがメロ切日になってしまったからです)。

現在私がちょっと残念に思っていることは、同窓生からメールが来ないことです。この同窓会誌をご覧になった方、是非メールして下さい。お待ちしております。

### お知らせ

湖島会では、皆様のお便りをお待ちしております。皆さまの学生時代の思い出話、苦勞話、また最近の後近況など、多数お待ちしております。よろしくお願いたします。

また、今回は多数の方々からのご寄稿を頂きまして誠に有り難うございました。

## 教養部改組について

電気電子工学科 大内 伊助

ご存じの方も多いとは思いますが、最近全国の大学で、教養部の廃止されるところが多くなって来ています。これは、平成3年7月に、大学に関する法律のもっとも基になる「大学設置基準」が改定され、教養課程というものがなくなったからであり、各大学はそれぞれの理念や特色に合わせて自由にカリキュラムを組めるようになったからです。鳥取大学でも、どのように大学全体を改革したらよいかという議論が各学部でなされ、卒業生の皆さんからのアンケートの結果も入れて、カリキュラムの方は平成5年の新入生から教養課程がなくなり、平成7年4月からは、教官の方も教養部がなくなって各学部に分属し、完全に新しい体制になりました。

具体的に大きく変わった点は、学生諸君は、2年間で教養課程を了えてから専門学部へ進むという従来の制度から、最初から専門学部に属して4年間の一貫教育を受けるということに変わった点です。教養科目や語学などの重要性は、制度が変わっても変わりませんが、それらを最初の2年間にとってしまう必要はありません。また、そういった科目の必要単位数も少し減りました。そして1年目から専門科目をいくつかとることになっています。また、教官の側からいうと、全学の教官が教育、医、工、農のいづれかの学部に属し、卒論生を担当して専門教育にあたると同時に、一般教育にも関与するというやりかたになりました。

新しい制度がうまく行くかどうかは何年か経ってみないと分からないかも知れませんが、折角、時間を使って制度を変えたわけですから、なんとしてもうまく行かせるようにしないとイケないと思っています。社会人の立場からの積極的なご意見があればお聞かせ下さい。

## 電気電子工学科組織表

講座	研究グループ	教員氏名	直通電話番号	内線番号	電子メール・アドレス
電子情報制御	演算制御工学	大北 正昭	31-5699	4190	mohki@ele.tottori-u.ac.jp
		松岡 節	31-5231	4199	mat@ele.tottori-u.ac.jp
		大木 誠	31-6701	4192	mohki@ele.tottori-u.ac.jp
	情報通信工学	副井 裕	31-5234	4180	fukui@ele.tottori-u.ac.jp
		石田 雅	31-5235	4181	m_ishida@ele.tottori-u.ac.jp
		伊藤 良生	31-5698	4185	itoh@ele.tottori-u.ac.jp
		立木 純夫	31-5690	4182	tsuiki@ele.tottori-u.ac.jp
	電子応用工学	徳高 平蔵	31-5242	4350	tokutaka@ele.tottori-u.ac.jp
		岸田 悟	31-5244	4351	kishida@ele.tottori-u.ac.jp
藤村喜久郎		31-5243	4352	fujimura@ele.tottori-u.ac.jp	
電気電子システム	電磁環境工学	斎藤 皓彦	31-5237	4201	saito@ele.tottori-u.ac.jp
	電子回路工学	小西 亮介	31-6703	4320	konishi@ele.tottori-u.ac.jp
		菅原 一孔	31-5245	4321	sugahara@ele.tottori-u.ac.jp
		尾崎 知幸	31-5246	4322	osaki@ele.tottori-u.ac.jp
	電気電子機器工学	西守 克己	31-5688	4200	nisimori@ele.tottori-u.ac.jp
		加藤 義人	31-5236	4202	kat@ele.tottori-u.ac.jp
石原 永伯	31-5689	4198	ishi@ele.tottori-u.ac.jp		
電子物性デバイス	固体電子工学	小林 洋志	31-5238	4340	hkoba@ele.tottori-u.ac.jp
		北川 雅彦	31-5239	4341	kitagawa@ele.tottori-u.ac.jp
		市野 邦男	31-5240	4342	ichino@ele.tottori-u.ac.jp
	電子物理工学	田中 省作	31-5330	4330	tanaka@ele.tottori-u.ac.jp
		大観 光徳	31-6700	4332	ohmi@ele.tottori-u.ac.jp
	光エレクトロニクス工学	安東 孝止	31-5697	4310	ando@ele.tottori-u.ac.jp
		松浦 興一	31-5241	4331	matsuura@ele.tottori-u.ac.jp
	笠田 洋文	31-5233	4172	kasada@ele.tottori-u.ac.jp	
量子物性工学	大内 伊助	31-5631	6156	ouchi@ele.tottori-u.ac.jp	
	中井 生央	31-5632	6162	nakai@ele.tottori-u.ac.jp	
電気電子工学科事務	奥山 陽子	31-5247	4355		
その他	学科へのFAX	31-0880	超高圧実験室	(内) 4196	
	システム解析室	31-5231 (内) 4199	学科応接室 (視聴覚室)	(内) 4205	

# 会計と行事

## (収入の部)

項目	1994年度予算	1994年度実績	1994年度損益	1995年度予算
同窓会設立基金	¥0	¥380,000	¥380,000	¥0
入会金	¥400,000	¥335,000	△¥65,000	¥400,000
会費	¥0	¥0	¥0	¥3,000,000
その他	¥0	¥0	¥0	¥0
小計	¥400,000	(1) ¥715,000	¥315,000	¥3,400,000

## (支出の部)

項目	1994年度予算	1994年度実績	1994年度損益	1995年度予算
会報・名簿発行	¥400,000	¥434,630	△¥34,630	¥2,400,000
アルバイト代	¥60,000	¥55,000	¥5,000	¥150,000
事務費	¥10,000	¥9,623	¥377	¥20,000
会議費	¥50,000	¥56,346	△¥6,346	¥60,000
通信費	¥20,000	¥22,989	△¥2,989	¥50,000
その他	¥10,000	¥2,280	¥7,780	¥50,000
小計	¥550,000	(2) ¥580,868	△¥30,808	¥3,720,233

(3) 今年度(1994)収支 (1) - (2)	¥134,132	1995年3月31日 現在 郵便振込口座(設立基金) ¥377,720 郵便定額貯金 ¥2,000,000 郵便普通預金 ¥1,167,783 銀行普通預金 ¥79,111 現金 ¥25,619 合計 ¥3,650,233
(4) 前年度(1993)繰越金	¥3,516,101	
(5) 次年度(1995)繰越金 (3) + (4)	¥3,650,233	

1994年度事業報告	1995年度事業計画
<p>1. 会員名簿の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●住所不明者の調査 ●会員名簿の管理</li> </ul> <p>2. 同窓会設立基金の徴収</p> <p>H7.5.13現在で512名(全卒業生, 修了生数は1,903名)</p> <p>3. H6.12に会報「湖島会会報No.3」を発行</p> <p>4. 入会金の徴収</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●H7.3.24に電気電子工学科卒業生および電気電子工学専攻修了者より入会金(¥5,000)を徴収。</li> <li>●同時に, 名簿, 湖島会会報No.3, 記念品を配布。</li> <li>●卒業後の住所の調査, ●会費未納者のチェック。</li> </ul> <p>5. 理事会準備作業</p> <p>6. 活動履歴</p> <p>1994.7.16 H6年度理事会開催</p> <p>7.16 第2回幹事会(会報の検討)</p> <p>9.14 第3回幹事会(会報編集委員会)</p> <p>12.2 第4回幹事会(会報編集委員会)</p> <p>1995.2.7 第5回幹事会(工学部30周年記念行事への対応, 年間スケジュール案の作成。</p> <p>3.11 第1回幹事会(理事会の準備)</p> <p>7. 工学部同窓会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●工学部30周年記念事業など</li> <li>●幹事(北川が工学部同窓会幹事会に参加)</li> <li>●記念事業準備委員会に, 幹事(岸田, 大木)が参加</li> </ul> <p>8. その他</p> <p>広く会員からの意見などを受け入れ, 会員相互の親睦のためのかつちょうを行った。</p>	<p>1. 会員名簿の改訂および管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●住所不明者の調査および管理</li> <li>●各研究室毎に卒業生の住所を調査し, 改訂する。</li> <li>●H7年12月に発行する。</li> </ul> <p>2. 入会金の徴収および記念品の配布</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●H8年3月に卒業, 終了するものから徴収する。</li> <li>●同時に, 名簿, 湖島会会報No.3, No.4, 記念品を配布する。</li> </ul> <p>3. 湖島会会報No.4の発行(12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●編集委員会スケジュール</li> <li>5月 基本方針検討</li> <li>7月 基本方針決定</li> <li>9月 原稿締切, 構成検討</li> <li>10月 印刷</li> <li>12月 発行</li> </ul> <p>4. 工学部同窓会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●工学部30周年記念事業など</li> </ul> <p>5. 記念品の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●卒業・終了生へ配布する記念品として, 湖島会オリジナルのテレフォンカードを作成する。</li> </ul>

## 湖鳥会事務局からの連絡

### 1. 会費について

今回で湖鳥会会報の第4号を皆さまに無事にお届けすることができ、関係者一同頑張った甲斐があったと自負しております。

ところで会報や名簿発行などの作業は実際には決算報告でお分かり頂けるように、お金のかかるものです。同窓会名簿を受け取られた方で、設立基金未納の方はこのような状況ですので、事務局までなにとぞ納入いただきますようお願いいたします。

#### ●未納かどうかの確認方法

封筒に記載された住所下のコード・ナンバーを確認して下さい。

(例) EC 65 001-001-10 未納の場合は00  
となっております。

#### ●振込口座番号

山陰合同銀行 湖山支店  
普通 108-2351726  
あるいは同封の郵便振り込みをご利用下さい。

#### ●住所不明者について

現在、住所不明者は、  
約400人/1900人中  
となっております。誤りや変更等を名簿で気づかれた方は、事務局までご一報下さいますようお願い申し上げます。

### 2. 会長より一言

湖鳥会会報第4号発行おめでとうございませう。今回の会報は同窓生全員に送付しておりますので、設立基金・会費未納者の方は出来るだけで早急に基金・会費を納入ください。

今回発行いたしました名簿を送付いたします。湖鳥会第4号を皆様にお届けできたことで、今後も継続的に会報を発行し、益々充実した同窓会活動を行っていかうと考えています。この事務局の努力・苦勞を少しでも理解頂き、今後とも皆様の暖かいご支援の程お願い申し上げます。(基金・会費の納入と会報への原稿等、随時お待ちしております。)

湖鳥会会長 鷺見 育亮

### 3. 会報原稿について

湖鳥会事務局では、会報に載せる皆さまの意見、近況報告などを広く募集いたしております。紙面の都合ですぐには掲載できない場合もあるかもしれませんが、少なくとも次々号には掲載できると思います。原稿はどのような形式(手

紙、はがき、ファクス、電子メールなど)でも結構ですので、皆さまのお便り、ご意見をお待ちしております。よろしくお願い申し上げます。

### ——編集後記——

昨年の会報編集作業から早くも一年が過ぎ去ろうとしております。今年もやっとのことで、編集作業が終えることができ、ほっと胸を撫で下ろしているところです。

今年一年を振り返ってみますと、実に多くの出来事がありました。かい摘んでは申しませんが、年々その激動の様相は激しさを増しているように思うのは我々だけではないと思います。そのような背景もあってか、今回の編集に当たっては、同窓生の皆様からの投稿に助けられた面が非常に多かったと思います。

この会報発行も第4号目を迎えることができ、やっとな軌道に乗ってきたと思います。しかしながら、まだまだ至らない部分もあり、反省すべき点が多々あると思っております。これからも同窓生の皆様と一緒に、この会報を作っていくと考えておりますので、近況などは是非お寄せ下さい。

最後になりましたが、編集にご協力いただきました学内の教職員、同窓生ならびに編集委員に深く心から感謝いたします。有り難うございました。

湖鳥会幹事	安東 孝止	岸田 悟
	田中 省作	藤村喜久郎
	北川 雅彦	大木 誠

#### <湖鳥会事務局連絡先>

〒680

鳥取市湖山町南4丁目101

鳥取大学工学部

電気電子工学科事務室気付

電気電子工学科同窓会  
湖 鳥 会

TEL 0857-28-0321 (代)

FAX 0857-31-0880